

「エコ」貢献 工夫いろいろ

環境保全に関する製品や、企業やNPOなどの取り組みを紹介するイベント「エコプロダクツ2009」が先月、東京・江東区の東京ビッグサイトで3日間にわたって開かれました。温室効果ガス削減が国際的な問題となる中、会場では様々な工夫が紹介されていました。(中2・大寺史恩、中3・山田彰城、高2・都倉直子記者)

企業・NPOが紹介イベント

このイベントは1999年から毎年開かれ、今回は721団体が出展しました。展示の中から、シュレッダーで裁断した紙をトイレットペーパーにリサイクルする機械「ホワイトゴート」を取材しました。

「白ヤギ」を意味するこの機械は、幅と高さが約1・8メートル、

奥行き約0・8メートル。シュレッダーゴミを入れると、自動的にロール状のトイレットペーパーに再生されます。

ゴミを水に混ぜて溶かし、ホチキス針などを取り除きます。細長く再生した紙を乾かし、巻き取れば完成です。A4判の紙約40枚で、70〜80枚のロール1



左上部のシュレッダーに紙を入れると裁断され、右下部からトイレットペーパーが出てくる「ホワイトゴート」の試作品(「エコプロダクツ2009」で)



都立つばさ総合高校の生徒に取材するジュニア記者(右端)

個が約30分でできます。

アイデアを思いついたのは、シュレッダーなどの機器を製造するオリエンタル(群馬県桐生市)という会社の能沢公弘(開発技術部長(38)です。約15年前、シュレッダーのテストで出る何十ものゴミを前に、「製品が売れるほど、環境が悪化するのではないかと心配になりました。シュレッダーのゴミは細かすぎて再生するのが難しく、焼却してきたからです。そこで、「誰かが使うトイレットペーパーに再生できないか」と、研究を始めました。

製紙業界の知人に設計を頼んだら、幅20センチの大きさになり、実用化できませんでした。3年後、小さくしようと群馬大と共同研究しましたが、今度は費用がかかり過ぎて断念。それでも、「ゴミの山を前にすると、あきらめられなかった」。国の補助金を受け、6年前に研究を再開しました。

が売れ、1台は桐生市役所で使われています。個人情報などが書かれた書類をトイレットペーパーにして市民に無料で配り、喜ばれているそうです。シュレッダー付きのホワイトゴートも開発中で、試作品がエコプロダクツで展示されていました。

能沢さんは「すべてのゴミをリサイクルする装置をつくるのが目標です」と、夢を語ってくれました。

高校や大学などの学校も出展していました。2007年度の地球温暖化防止活動環境大臣表彰で環境大臣賞を受賞した東京都立つばさ総合高校は、環境問題に取り組む委員会の活動などを紹介していました。

各教室にはゴミ箱がなく、生徒は校内6か所のゴミステーションに分別して捨て、それを委員会が中心となって分別しているそうです。生徒会長の清水真旺さん(2年)は「生徒も先生も同じ立場でエコについて考えています」と話していました。

*

取材を通じ、各団体がそれぞれの持ち味を生かし、「エコ」に貢献していることがわかりました。3日間の会期中に過去最多の18万2510人が来場し、1割は環境学習で訪れた児童生徒でした。「ものを大切にしよう」という心が、色々な形で表されているのを見て、自分たちにもできることはないか、考えさせられました。